

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	図書館情報システム整備事業費				
担当課係名	学習資料館 課	学習資料館 係	作成者	高橋眞行美	
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画のページ
	基本計画	生涯学習の推進と社会教育施設の整備			
	主要施策	学習資料館の充実			95~96
予算費目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 社会教育費	5 目	学習資料館及びイベント交流館
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規/継続の区分		継続	
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				
根拠法令等	仙北市総合情報センター条例				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民及び地域住民
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	旺盛な学習意欲を持ち、多種多様化かつ高度化した市民のニーズに対して、的確で迅速な資料提供ができるように努める。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	館内の蔵書検索機やHP画面などリニューアルされ使いやすく、利用者の活用が増えている。

【事務事業の推移】

		項 目	単 位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	システム登録済み蔵書冊数	目標	冊		200,000	200,000
			実績	冊		115,332	119,275
			達成度	%		57.7%	59.6%
	成果指標	リクエスト及び貸出予約数	目標	冊		1,300	2,200
			実績	冊		1,159	2,084
			達成度	%		89.2%	94.7%
投下コスト	項 目		総事業費	18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)				1,323	3,036	
	人 件 費 (B)				1,614	1,585	
	職 員 数				0.20	0.20	
	職 員 平 均 人 件 費				8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				2,937	4,621	
	財源内訳	国 庫 支 出 金					
		県 支 出 金					
		地 方 債					
		そ の 他					
一 般 財 源				2,937	4,621		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)				25	39	
	市民1人当たりのコスト(円)				93	149	

【事務事業の今までの成果】

システムの再構築・業務用機器の更新により、画面がリニューアルされ、目新しさ使いやすさから貸し出し予約申し込みなどが増える傾向にある。市民の読書意欲の向上と利用者の拡大に努める。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	合併後、管内図書館の整備に向けて、図書館システムの導入及び更新等に努力している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	多様化する利用者の利便性を高める努力をきめ細やかに対応しているので概ね好評である。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続(実施)	今後は、学習資料館と文学館の各々の資料を同一システムで管理運営するよう処理する。
	B 1 見直しの上で継続(拡大)	
	B 2 見直しの上で継続(手段改善等)	
	B 3 見直しの上で継続(縮小)	
	C 1 大幅な見直しの上で継続(拡大)	
	C 2 大幅な見直しの上で継続(手段改善等)	
	C 3 大幅な見直しの上で継続(縮小)	
	D 休止・廃止(統合を含む)を検討する事業	
	E 終了(完成及び目的を達成し終了した事業)	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容(改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。)

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	所蔵する蔵書・資料をより有効に活用できる環境を整備・充実することにより、利用者(市民)の学習活動に対し更なる貢献ができるという観点から、継続すべきものです。なお、今後のシステムの維持管理に関しては、より効率的な手法を検討する視点をもって進めていきたいと考えます。

